

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

そごう・西武労組が 61年ぶり「百貨店スト」



8/31 スト当日、デモを行う組合員ら

「教科書で習った『スト』を見に来た」という高校生、ジュースを

そごう・西武労働組合は8月31日、西武池袋本店でのストライキを決行しました。「百貨店スト」は1962年5月の阪神百貨店以来で約61年4カ月ぶりです。西武池袋本店はシャッターが閉まり、終日閉店となりました。

ストライキに多くの支持と注目

「西武池袋本店を守ろう！」「池袋の街に百貨店を残そう！」——そごう・西武労組の組合員約300名が池袋の駅頭にたつて宣伝を行い、デモにたちましました。

雇用と地域を守ろうと真剣に訴える姿に、「応援しています！」「スト、初めて見た」など多くの人が

職場に闘う労働組合を

差し入れる高校生、ストの張り紙と一緒に写真を撮る人たちなど、多くの注目と支持の中の闘いでした。百貨店事業の売却は強行されましたが交渉は継続しています。

「百貨店は斜陽産業だから仕方ない」「ストをやっても何も取れないから無意味」「迷惑なだけだ」といった意見もありました。しかし、決行されたストライキの影響は大きく、テレビや新聞でもトップニュースとして取り上げられました。当初は「無視」を決め込んでいたセブンHDもストライキを背景に「対話」せざるをえなくなりました。

アメリカやヨーロッパでは大規模なストライキが次々に闘われ、労組結成も相次いでいます。「米・財務省は、労組の存在が賃金を10〜15%押し上げるとの見通しを示した」（8/30日経新聞）——日本において「賃金が30年も上がらない」と言われる状況を変えるのも、労働組合の存在と闘いです。

JRは「鉄道を持つIT企業になる」などといった鉄道の実業部門やそこで働く労働者をないがしろにし、業務融合化で「何でも屋」のように扱う攻撃を進めています。この攻撃に対抗する力も、職場からの声と闘う労働組合の中にあります。